

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立松山工業高等学校

学校番号 (24)

評 価 実 施 日		令和 8 年 2 月 1 8 日 (水)	
委員	氏 名	所 属 等	備 考
	菊池 伸英	同窓会会長	
	大北 謙治	前同窓会会長	
	佐々木 亨	P T A 会長	欠席
	武智 秀樹	株式会社 親和技術コンサルタント 代表取締役	
	梶原 慶彦	株式会社 伊予鉄グループ 人事課長	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について (1) 学習指導 デジタルツールを活用した授業について、具体的にどのような場面で、どのような効果を上げているのかについて、より明確な情報発信をしてほしい。 (2) 生徒指導 就職に向けた身だしなみや言葉遣い、社会常識など、基本的なマナーに関する指導をより一層充実させてほしい。 いじめや暴力行為の様子を撮影し、SNS等に投稿する事案が社会問題となっている。表面的な対応だけではなく、根本的な要因に対する対策や、未然防止に向けた継続的な取組が求められる。 公共交通機関の廃止により通学手段の選択肢が限られる中で、バイク通学の許可条件の緩和についても検討の余地があるのではないだろうか。 (3) 進路指導 県外就職者の離職率の高い傾向にあり、地域の人材流出が課題である。生徒が県内企業に目を向けるような進路指導の充実を図ってほしい。給与面だけでなく、職場環境や地域とのつながり、生活設計など多面的な視点を持たせる指導が求められる。	意見共有や資料提示、課題の提出・回収を効率的に行っている。また、動画視聴や音声教材の活用、プレゼン資料の作成・発表などを通して、生徒の理解を深め、主体的な学びを促す工夫をしている。 社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力を向上させる指導を、今後も継続して徹底していきたい。 いじめや暴力行為の未然防止および早期対応に努めるとともに、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるよう、他者への配慮や思いやりを育む指導を行っている。 これまでも公共交通不便地の生徒にはバイク通学を最寄りの駅まで許可しており、電動自転車の利用者は増えてきている。電動自転車に関する制度や補助の課題については、引き続き検討を進めたい。 卒業時の進路満足度アンケートでは全員が「満足」と回答しており、希望に沿った就職ができています。職場環境に起因する離職は把握が難しい場合もあるが、卒業生や事業所との連絡体制を強化して対応していきたい。また、将来的な定着や離職防止の観点からの指導にも力を入れていきたい。

(4) 特別活動 生産部門において誇るべき成果が見られた。球技種目で、かつての本校の実績を踏まえ、再び名門校としての輝きを取り戻すような取組に期待したい。 2 説明・公表について 資料が分かりやすく、適切である。 (全日制・定時制) 自己評価項目の設定根拠や決定過程の明確化、評価委員の意見を反映する仕組みの整備をお願いしたい。前年度に出された提言に対する対応状況について、今回の会議の場で説明がなかったことが残念である。(全日制) 3 学校運営への提言 志願者数の多さに表れているように、学校運営が良好であり、地域や生徒・保護者からの信頼を得ていることがうかがえる。今後もその強みを活かした教育活動の継続が期待される。 A I 技術の高度化により、今後の社会や働き方が大きく変化していくことが予想される。変化に柔軟に対応できる力や、A I と共に働くための資質・能力の育成に、今後一層力を入れてほしい。 指導とハラスメントの線引きが社会的にも問われている。適切な指導と不適切な言動を見極める力を身につけることができるよう、教育の中での取り組みを進めてほしい。 新学科の魅力発信に尽力してもらいたい。 (定時制)	県立高校として、学業との両立を大切にしながら、競技人口の拡大と競技力の向上に向けて、最大限の技術指導を行っている。今後も球技種目の競技力向上と生徒の意欲向上に努めたい。 毎年改善し見やすさ、分かりやすさを追求している。 「グラデュエーション・ポリシーの達成」項目については県教委の指導により追加し、その他は各委員からの意見照会を経て職員会議で決定した。今後は、評価委員会からの意見も年度当初の検討に反映できるよう努める。昨年度の「校歌を歌う機会を増やす」という要望については教職員へ周知し、対応を進めてきた。 時代に即した教育を追求していきたいと考えている。そのために引き続きご指導を賜りたい。 A I の積極的な活用は、重要と認識している。どんな技術も最終的には思いやり・優しさ・道徳心と言った人間的要素に帰結するものだと考える。人間的成長と高度な技術指導の両立を目指したい。 指導とハラスメントの線引きが社会的にも強く問われる中、適切な指導の在り方を明確にし、生徒・教職員双方が安心して学び・働ける環境づくりに取り組み、生徒が自ら「何が適切で、何が不適切なのか」を見極める力を身に付けさせたい。 松山市近隣の中学校訪問や各市町教育委員会が実施している説明会等を活用しながら、更なる広報活動の充実に努めたい。
--	--